



ウェゲナー生誕 100 年記念切手

P. Q.

1980年に Alfred Wegener (1880-1930) の生誕 100 年切手が東西両ドイツ（正式にはドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国）ベルリン地区、オーストリアで発行された。ウェゲナーは1880年11月1日 新教の牧師リチャード・ウェゲナーの子としてベルリンで生れた。ハイデルベルグ・インスブルック・ベルリン大学で勉強して 気象学者となり マールブルグ大学の講師となった。大陸移動説に対する発端は1910年に彼が何気なく世界地図を眺めていて ブラジルの海岸線の大きな直角の出っぱりと アフリカのカメルーンの海岸線の湾入の一致を気付いた時にあると云われる。もちろん同様な考えをした人は彼が最初ではない。すでに1909年と1910年に現在の各大陸は 以前の単一の大陸塊から分裂したと云う要旨を発表した人は少くとも 2 人いた。しかし ウェゲナーが大陸移動説の創始者とされる所以は それが単なる思いつきでなく その証拠として地質学・地理学・地球物理学・古生物学・動植物学の現象をとり上げたことにある。彼の「大陸と海洋の起源」は1915年に初版が出版されたが その中で彼は両大陸における楕状台地 古生代の褶曲山脈の一致 そこから産する同種の化石 氷河期の礫岩について述べ さらにオーストラリアとインドとの結合に及んでいた。それは現生の原始的な動植物 有袋動物・単孔類・こうもり・みみず・針葉樹の分布まで含んでいた。両大陸ばかりでなく 彼の説によればオーストラリアはかつてインド・アフリカと接合していた。彼が大陸移動説を確立するために整理した測地学・地球物理学・地質学・生物学・気候学のデータはまったく印象的であり 芸術的でさえあった。これらのデータの大部分は真実であり有力であった。しかし一部の行き過ぎもないわけではなかった。そして多くの賛成・反対の議論がわき上った。

「大陸と海洋の起源」は1915年から29年まで 3 回改訂され

その度に証拠が積み重ねられた。少なからぬ科学者は熱狂的に支持した。大部分は中立だった。そしてアメリカで固く拒否された。大陸の様に巨大な陸地を動かすことの出来る力の本質が解明されない限り 移動説はおあづけである。

第1次世界大戦後の数年間 彼は新しいハンブルグにある海洋研究所の所長を勤め、ハンブルグ大学で講義した。しかしドイツの科学界は彼の大学教授就任には反対だった。1924年40代の中ばにしてやっとオーストリアのグラーツ大学が彼のために気象学と地球物理学の講座を用意した。教授になってから彼は再度グリーンランド遠征を企てた。彼は1906年にグリーンランド探険に参加していた。再度の遠征で重要な事実グリーンランド内部の氷の厚さが1,800メートル以上あることが判明した。1930年10月30日丁度50歳のヴェゲナーは犬ぞりで西海岸にある氷上テントに向って出発した。そしてその日以来彼を再び見た者はいない。

ヴェゲナーの努力にもかかわらず 彼の大陸移動説は生存中でさえ一般には受け入れられなかった。地球科学者達の大部分は彼の説に攻撃を加え 彼の著書は本棚の片隅に追いやられた。少い支持者の1人に南アフリカの地質学者 A. L. デュトワがいる。しかしそれも長い間でなかった。およそ20年の後 地磁気の研究に始った“地球の再発見”はヴェゲナーの大陸移動説を見直さねばならなくなった。地磁気の稿模倣 海嶺と海溝 トランスフォーム断層 彼が生きていたならば何と想像だろうかと云うデータである。

大陸移動からプレートテクトニクスに至るまで 今なお論争が終ったわけでない。すべての地球の神秘が解明されたわけでないが ヴェゲナーは疑いなく偉大な科学者だった。

切手は左からベルリン地区 東ドイツ オーストリアのを示す。ベルリン地区と西ドイツは同じ図案である。